

2009年7月15日

長野マラソン組織委員会 共同調査

# 第11回長野マラソン 出場者アンケート 報告書

(2009年5月7日～6月1日調査)

調査の設計	1
結果の概要	4



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

# I 調査の設計

## 調査の目的

11回目を迎えた長野オリンピック記念長野マラソンは4月19日、長野市内の長野運動公園～長野オリンピックスタジアムの新コース42.195キロで開催し、招待選手を含む国内外の7,241人が出場。男子がイサク・マチャリア選手（ケニア）が独走で2度目の栄冠、女子はイリーナ・ティモフェエワ選手（ロシア）が最終盤で逆転して初優勝した。

善光寺御開帳でにぎわう沿道は、観光客をまじえた応援の人出でにぎわい、スペシャルゲストで参加したシドニー五輪金メダリスト高橋尚子さんがコース途中やゴールエリアで市民ランナーを激励してレースを盛り上げ、6,257人が完走した。

長野マラソン大会組織委員会と長野県世論調査協会は、今後の大会運営と地元のまちづくりのあり方を探るねらいで、市民ランナーを対象とする恒例のアンケートを共同で実施した。

## 調査の設計

- ▽調査対象 国内の出場市民ランナー全員 7,081人  
(県内3,469人 県外3,612人)
- ▽調査方法 郵送（記録証の発送に同封）。回答は郵送、ファクス
- ▽調査期間 2009年5月7日～6月1日
- ▽回収結果 有効回収数 1,940人  
有効回収率 27.4%
- ▽調査主体 長野オリンピック記念長野マラソン大会組織委員会  
社団法人長野県世論調査協会

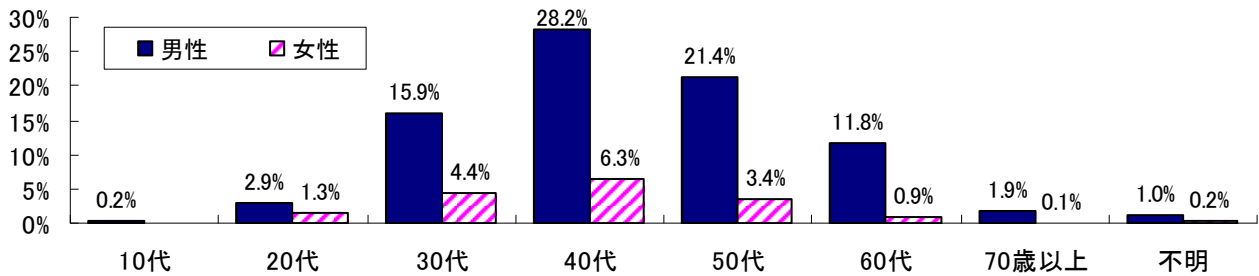
<注>報告書のパーセント数字は小数点2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

## ◆サンプルの内訳

### 【性別と年代】

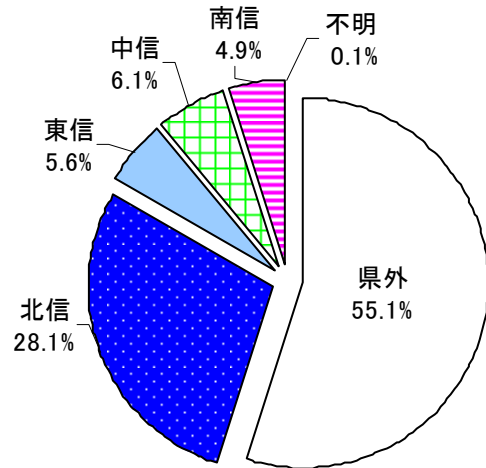
	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
全体	1940	4	83	395	670	481	246	37	24
	100.0%	0.2%	4.3%	20.4%	34.5%	24.8%	12.7%	1.9%	1.2%
男性	1615	3	56	309	548	415	228	36	20
	83.2%	0.2%	2.9%	15.9%	28.2%	21.4%	11.8%	1.9%	1.0%
女性	322	-	26	86	122	66	18	1	3
	16.6%	-	1.3%	4.4%	6.3%	3.4%	0.9%	0.1%	0.2%

※性別不明 3(0.2%)



### 【住所】

県外	1069	55.1%
長野県内計	871	44.9%
北信	546	28.1%
東信	109	5.6%
中信	118	6.1%
南信	96	4.9%
不明	2	0.1%



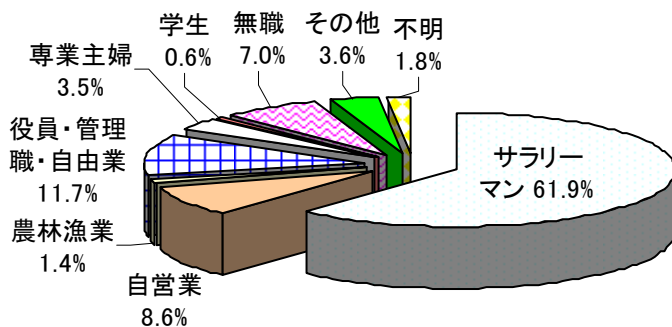
### 【都道府県】

北海道	13	1.2%
青森	0	-
岩手	0	-
宮城	14	1.3%
秋田	4	0.4%
山形	2	0.2%
福島	4	0.4%
茨城	12	1.1%
栃木	14	1.3%
群馬	25	2.3%
埼玉	100	9.4%
千葉	65	6.1%
東京	203	19.0%
神奈川	122	11.4%
新潟	101	9.4%
富山	15	1.4%
石川	13	1.2%
福井	4	0.4%
山梨	17	1.6%
岐阜	27	2.5%
静岡	19	1.8%
愛知	119	11.1%
三重	19	1.8%
滋賀	13	1.2%

京都	13	1.2%
大阪	56	5.2%
兵庫	24	2.2%
奈良	11	1.0%
和歌山	1	0.1%
鳥取	3	0.3%
島根	0	-
岡山	2	0.2%
広島	10	0.9%
山口	2	0.2%
徳島	5	0.5%
香川	2	0.2%
愛媛	0	-
高知	1	0.1%
福岡	7	0.7%
佐賀	0	-
長崎	0	-
熊本	1	0.1%
大分	1	0.1%
宮崎	0	-
鹿児島	3	0.3%
沖縄	1	0.1%
不明	1	0.1%

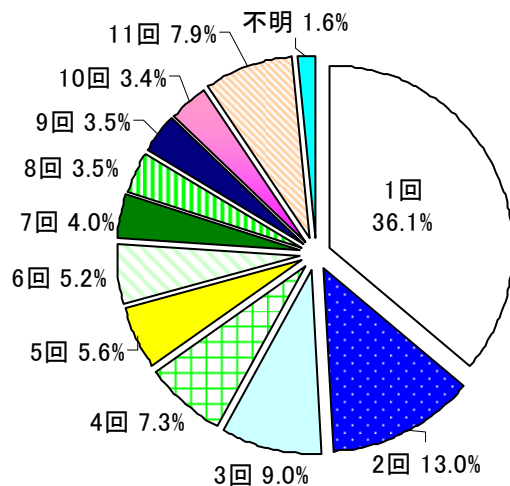
【職業】

サラリーマン	1201	61.9%
自営業	166	8.6%
農林漁業	27	1.4%
役員・管理職・自由業	227	11.7%
専業主婦	67	3.5%
学生	12	0.6%
無職	135	7.0%
その他	70	3.6%
不明	35	1.8%



【大会参加回数】(今大会含む)

1回	700	36.1%
2回	253	13.0%
3回	174	9.0%
4回	142	7.3%
5回	108	5.6%
6回	101	5.2%
7回	78	4.0%
8回	67	3.5%
9回	67	3.5%
10回	65	3.4%
11回	153	7.9%
不明	32	1.6%



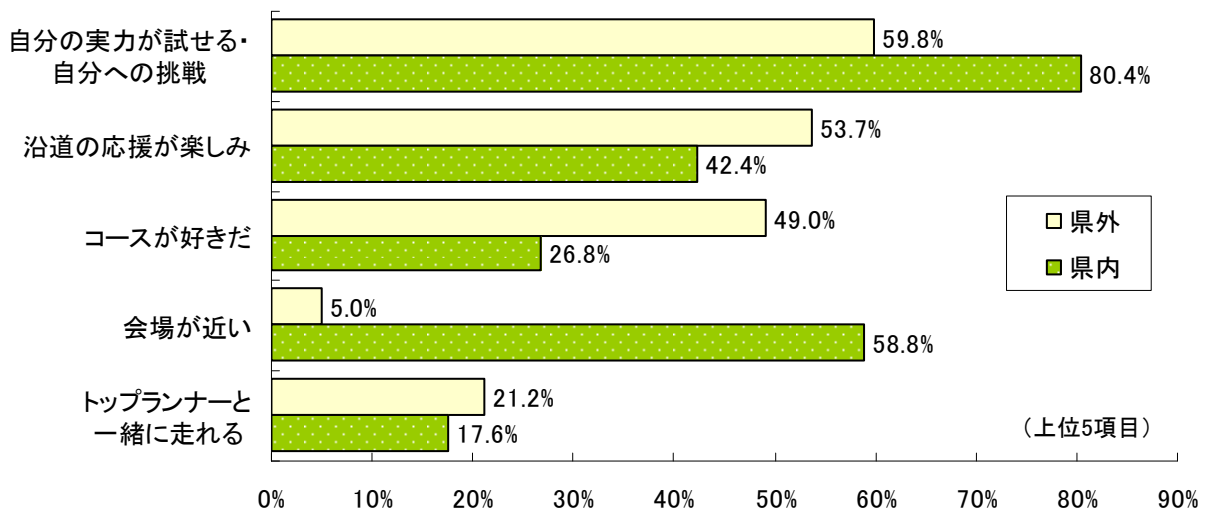
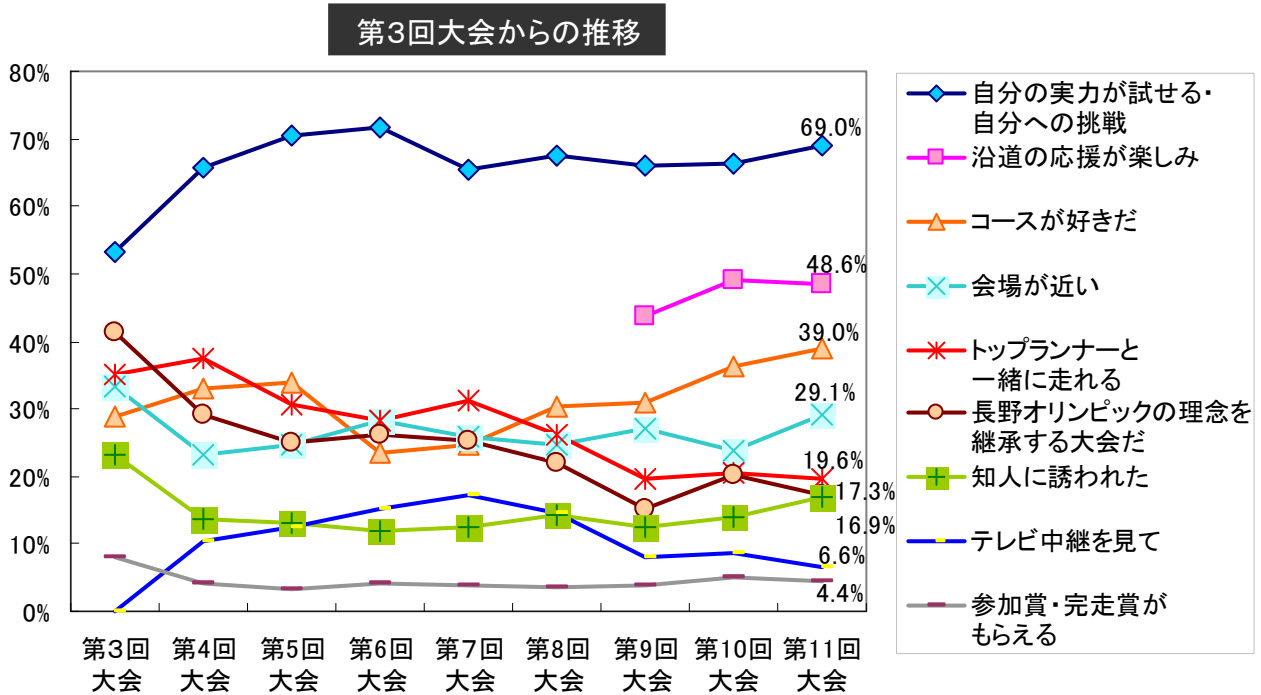
## II 結果の概要

### 長野マラソンに出場して

#### 参加の動機 県外勢「応援楽しみ」「コース好き」リード

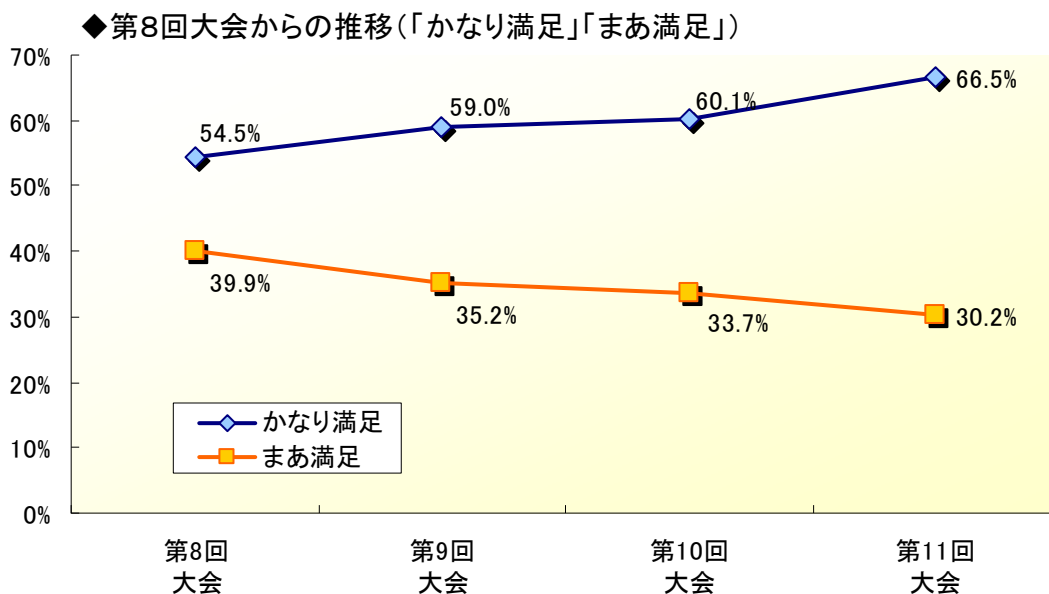
一貫して大差でトップを“独走”する「実力が試せる・自分への挑戦」が前回よりさらにアップし、70%に迫る勢い。「沿道の応援が楽しみ」2位をキープ。続く上位の「コースが好き」「会場が近い」の順位も変わらず、前回よりアップした。

「実力試し・挑戦」が県外勢で低めだが「応援」「コース」は平均値を上回る。県内勢は「実力試し・挑戦」で80%台に達し「会場」が二番目にランクされ、地域差がはっきり。女性で「応援」が高めの一方で、男性では「コース」が高めになる。



## 参加しての感想

### 「かなり満足」伸び 20～30代は70%台

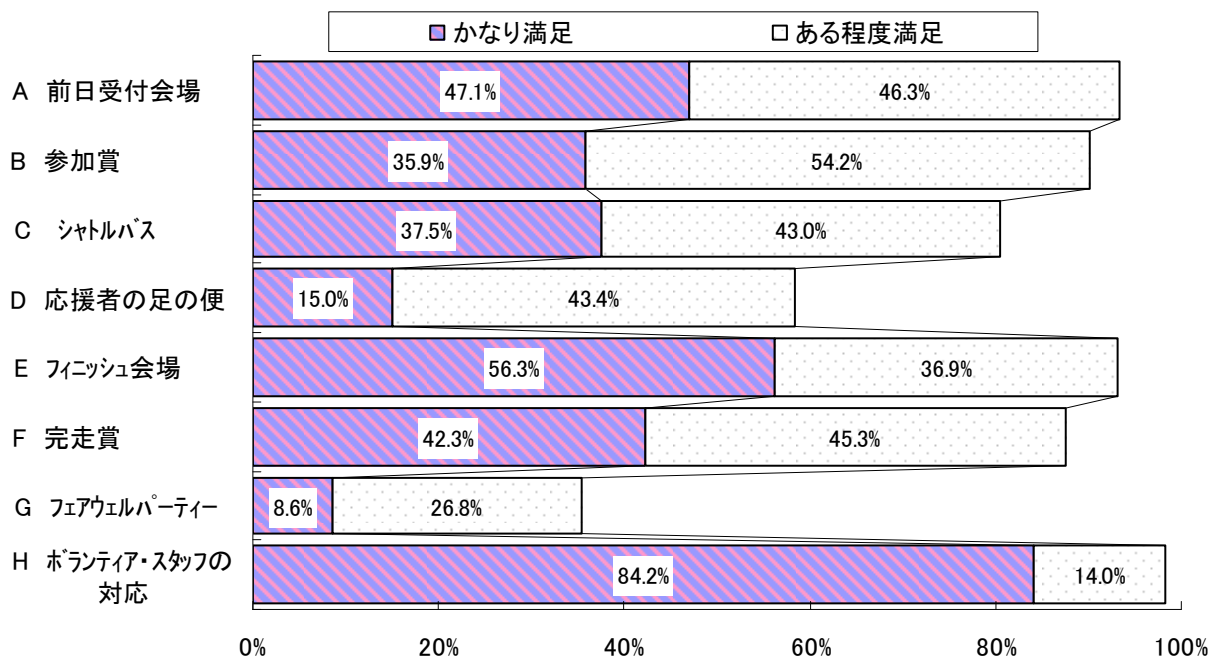


このところ上昇機運にある「かなり満足」がさらに6.7%に伸び、総体で90%を超える高さも揺るがない。

「かなり満足」は男女や県内外の違いがほとんどみられないが、年代層では20～30代で70%を超える。また、参加1～2回と10回でも高めになっている。

## 満足度 大会運営・催し物

### 満足ベスト3「スタッフの対応」「受付」「フィニッシュ会場」

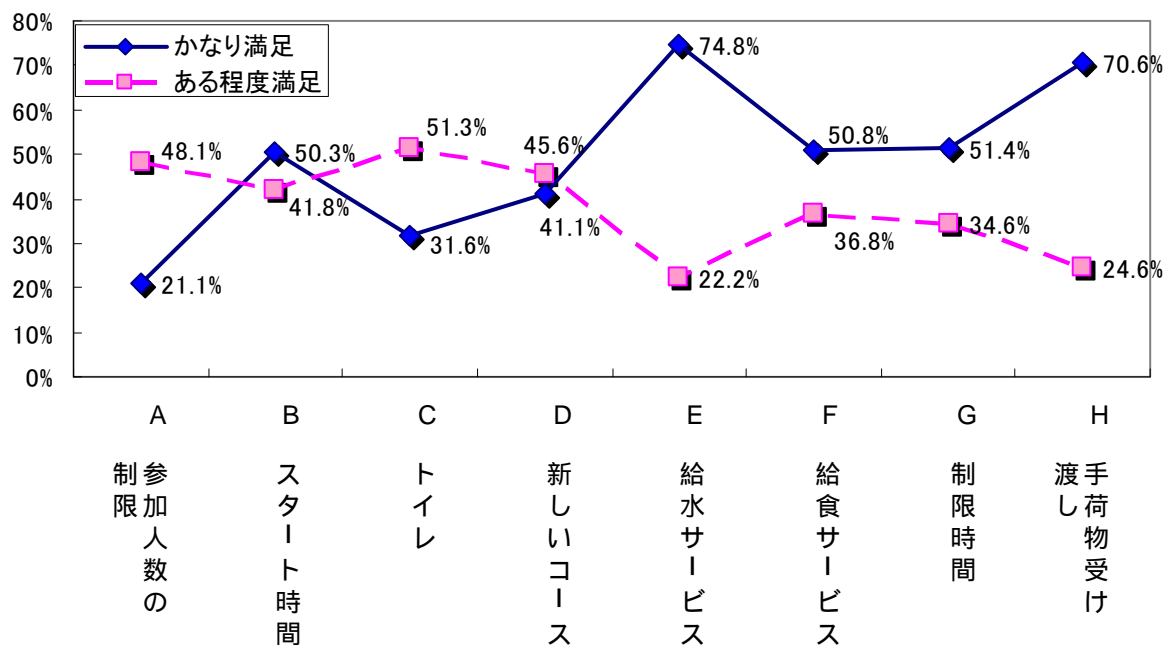


参加しての満足感を項目別に点検すると、大会運営・催し物の「かなり満足」はボランティア・スタッフの対応が84%と飛び抜けて高い。次いで、フィニッシュ会場、前日受付会場、完走賞が上位に入った。これらは男女、県内外を通じて、目立ったバラツキはみられない。

対照的に、満足度が低くなっているのはフェアウェルパーティーと応援者の足の便。県外勢の方が比較的振るわない。

**満足度 レース運営・サービス**

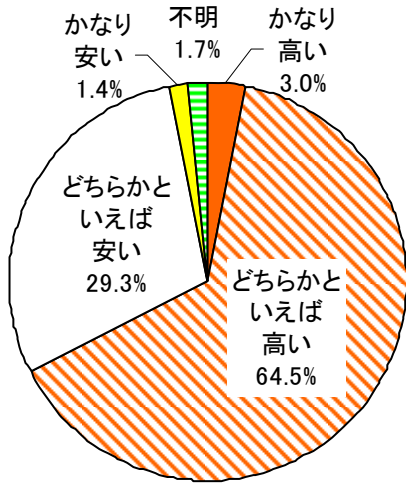
かなり満足「給水」「手荷物受け渡し」抜きん出る



レース運営・サービスで「かなり満足」は給水サービスが4人に3人にのぼりトップ。次いで、手荷物受け渡しが入り、制限時間、給食サービス、スタート時間が上位に横一線で並ぶ。スタート時間には満足総体で90%を超えている。

「かなり満足」は給水が男女、県内外で違いはみられない半面、手荷物では女性、県外勢で高めになる。低いのは参加人数の制限とトイレ。男性の受けとめが女性に比べてかなり落ち込む。

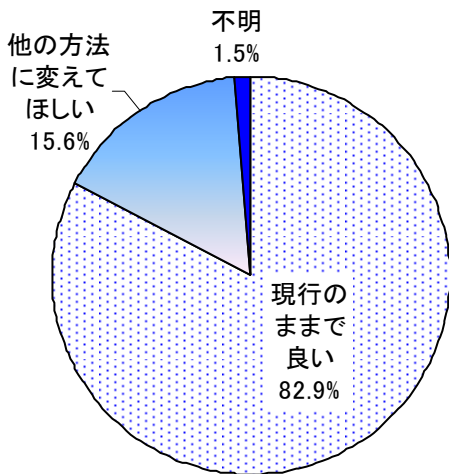
**評価 参加料 「高い」総体で68%**



「高い」総体で70%に迫る高さで、大半は「どちらかといえば高い」が占める。20代で「高い」総体で4人に3人にのぼる。50～60代も70%に近づく。

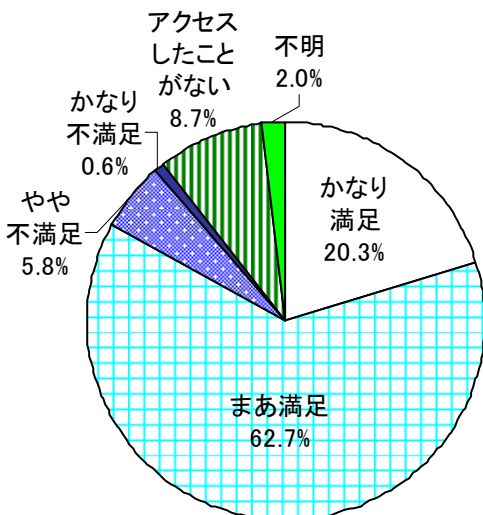
職業層では、学生で「かなり高い」17%と高い(回収サンプル数が少ないため参考値)。総体では無職層とサラリーマン層で増える。

**評価 先着順エントリー 「現行のまま」83%**



「現行のままが良い」が80%を超える高さ。男女、年代層、県内外、職業層を通じて、80%台を確保したが、参加回数でみるとややバラツキが生じる。

**評価 公式ホームページ 「満足」が80%台**



「満足」総体で80%台に達した。「かなり満足」だけで20%を確保し、県外勢や参加1～2回と10回、がやや高めで、20代では30%と最高。若い年代層で「満足」総体が高めになっている。

半面、60代以上では「アクセスしたことがない」が高まる。農・林・漁業を筆頭に無職層、専業主婦が振るわない。



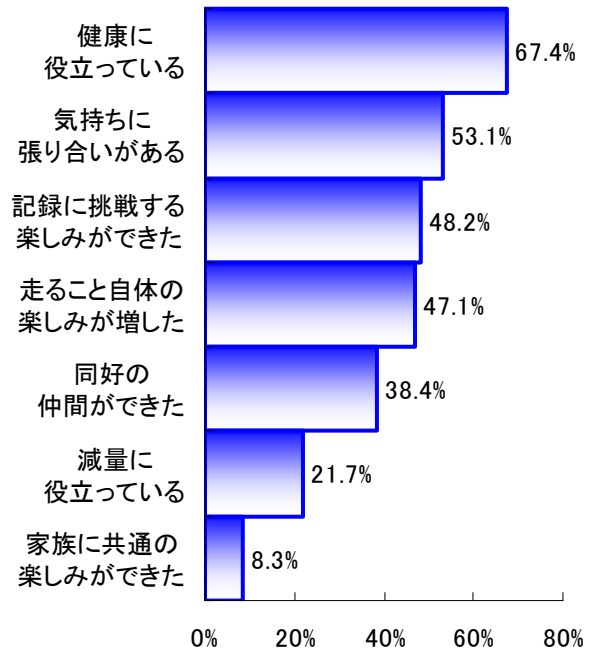
## マラソンを始めての効果

トップ「健康に役立つ」 続く「気持ちに張り合い」

「健康に役立っている」を筆頭に「気持ちに張り合いがある」と「記録に挑戦する楽しみができた」がベスト3。

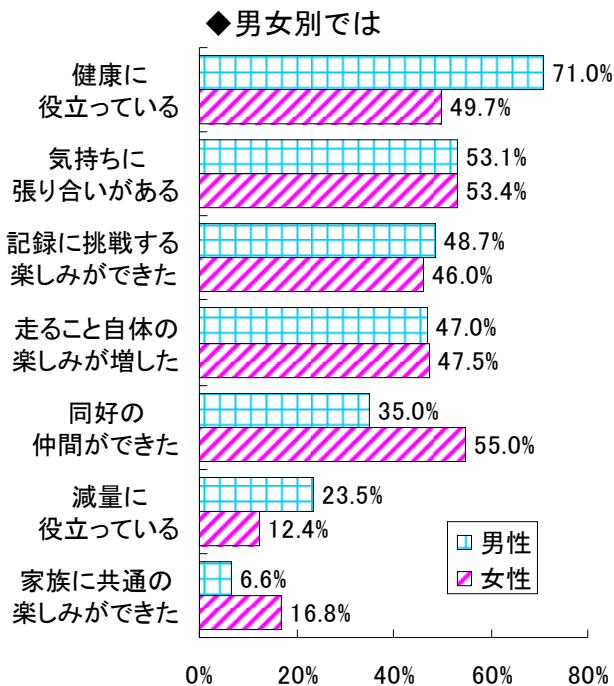
年配層で「健康」「張り合い」「同好の仲間ができた」が高い半面、若年層では「記録に挑戦する楽しみができた」「走ること自体の楽しみが増した」が高まる。

男性「健康」大きく引き離す  
女性は「同好の仲間が増えた」



「健康」が男性で70%台に突出する一方で、女性では「同好の仲間ができた」(全体では5位)が一挙にトップにランクされる。

また、県外勢で「記録挑戦」「仲間」が高めなのに対して、県内勢では「張り合い」「走る楽しみ」が上回る。

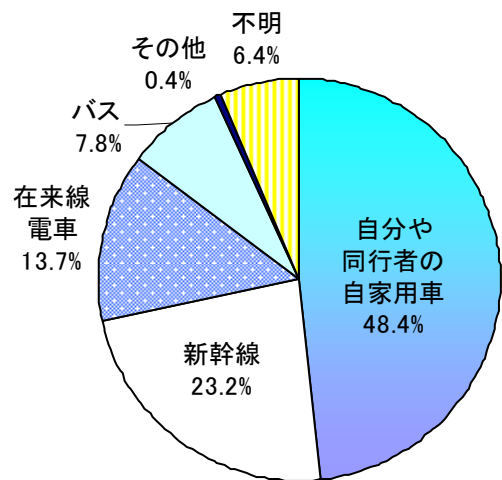


## 長野までの往復と滞在

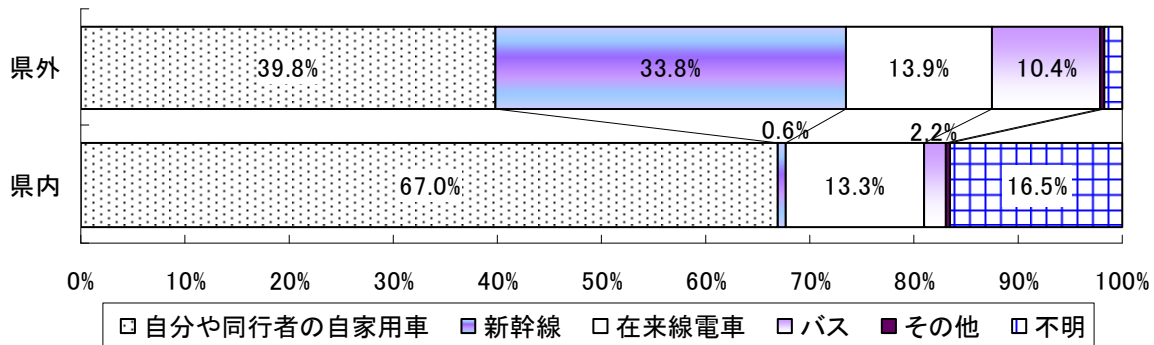
### 交通手段 「マイカー」約半数動かず 県外勢は「新幹線」3人に1人

「自分や同行者の自家用車」が48%と最も多く、大きく差が開いて「新幹線」は23%、「在来線電車」が14%の順。前回大会と目立った変化はみられない。

「マイカー」は男性で半数を占める高さの半面、女性では38%にとどまる。県内勢で67%に跳ね上がるが、県外勢は40%。参加10～11回で60%台の高率だが、1～2回では40%余にダウン。その分「新幹線」の割合が高まる。女性では約30%、県外勢では3人に1人の割り合いになる。



#### ◆県外・県内別では



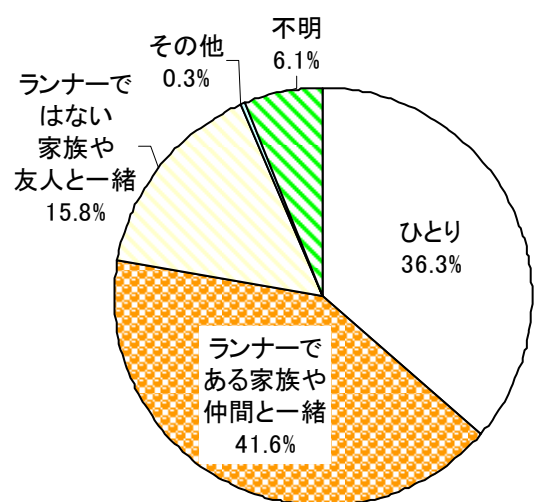
### 同行者 「ランナー仲間・家族と」ややアップ 「ひとり」ダウン

「ランナーである家族や仲間と一緒に」が若干増えて42%。前年大会はトップに並んでいた「ひとり」がやや減り36%。「ランナーでない家族や友人と一緒に」は変わらず16%。

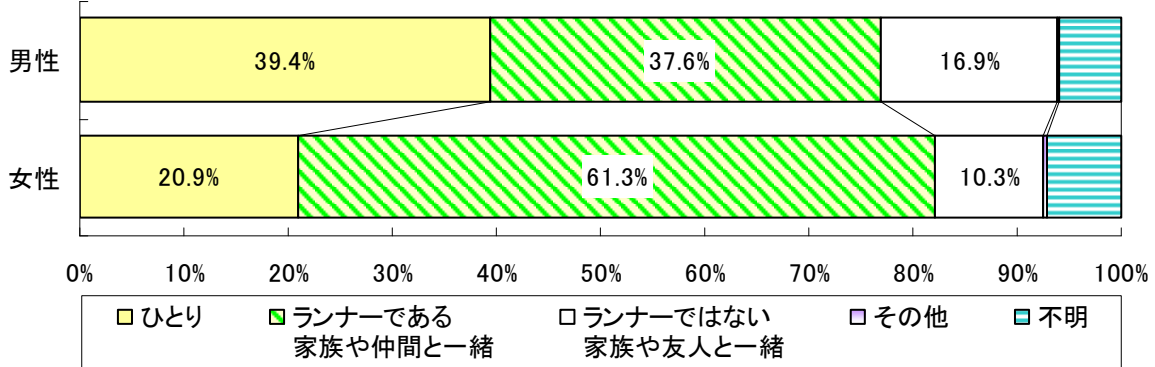
女性「ランナー仲間・家族」圧倒的  
男性は「ひとり」がほぼ並ぶ

「ランナー同士」で女性61% - 男性38%の開きは動かない。対照的に「ひとり」は男性39% - 女性21%の構図も続く。

「家族・仲間」は50代以下で高め。「ひとり」は40代以上で増える。参加回数でみると「家族・仲間」は参加2回が50%に迫り最高。「ひとり」では参加7回が45%にのぼる。



◆性別では

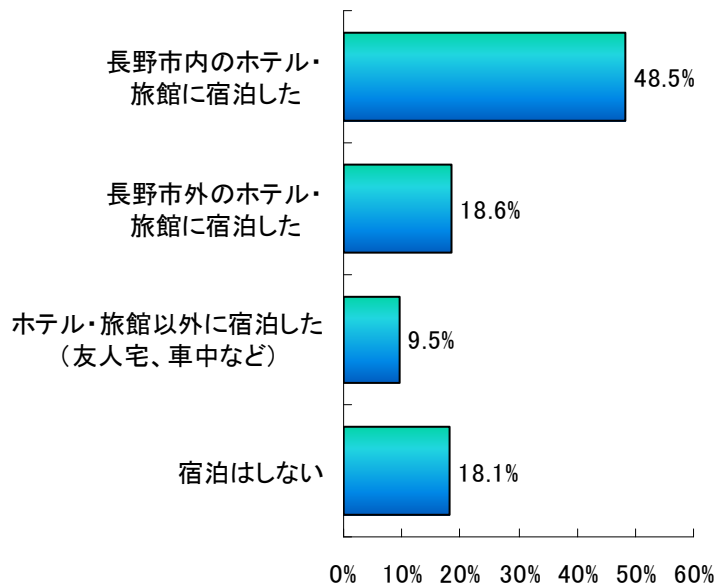


**宿泊 「長野市内のホテル・旅館」半数に迫る**

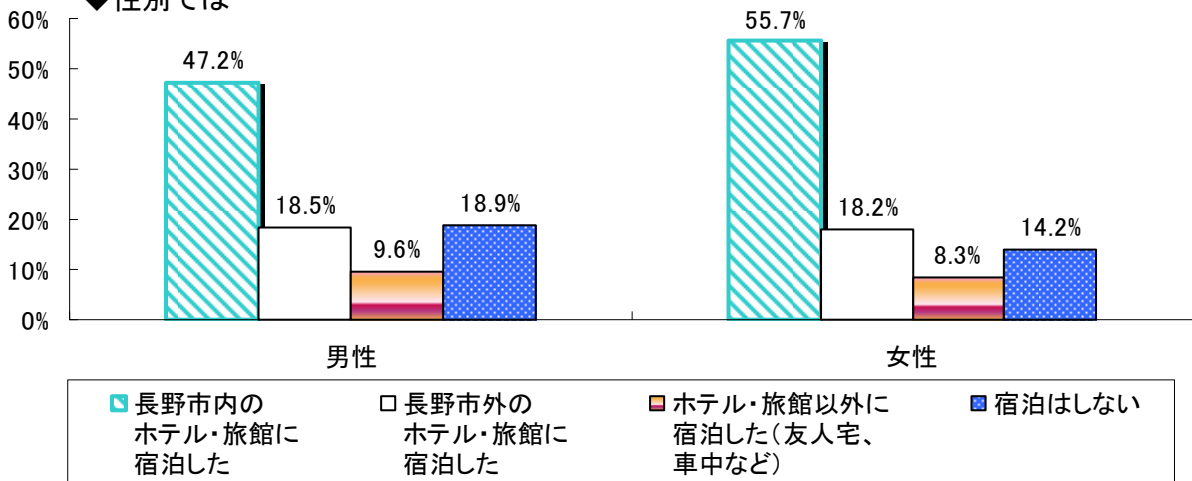
「長野市内のホテル・旅館」がほぼ半数を占め、大きな開きがあって「長野市外のホテル・旅館」が20%弱。「宿泊しない」も同数ある。

「長野市内」は女性が56%と高めで、県外勢では60%台にのせる。「長野市外」は男女がほぼ並び、県外勢の4人に1人の割り合い。県内勢は「宿泊しない」が55%にのぼる。

参加回数1～3回は「長野市内」が半数を上回る。「宿泊しない」は参加10回が40%超の最高。



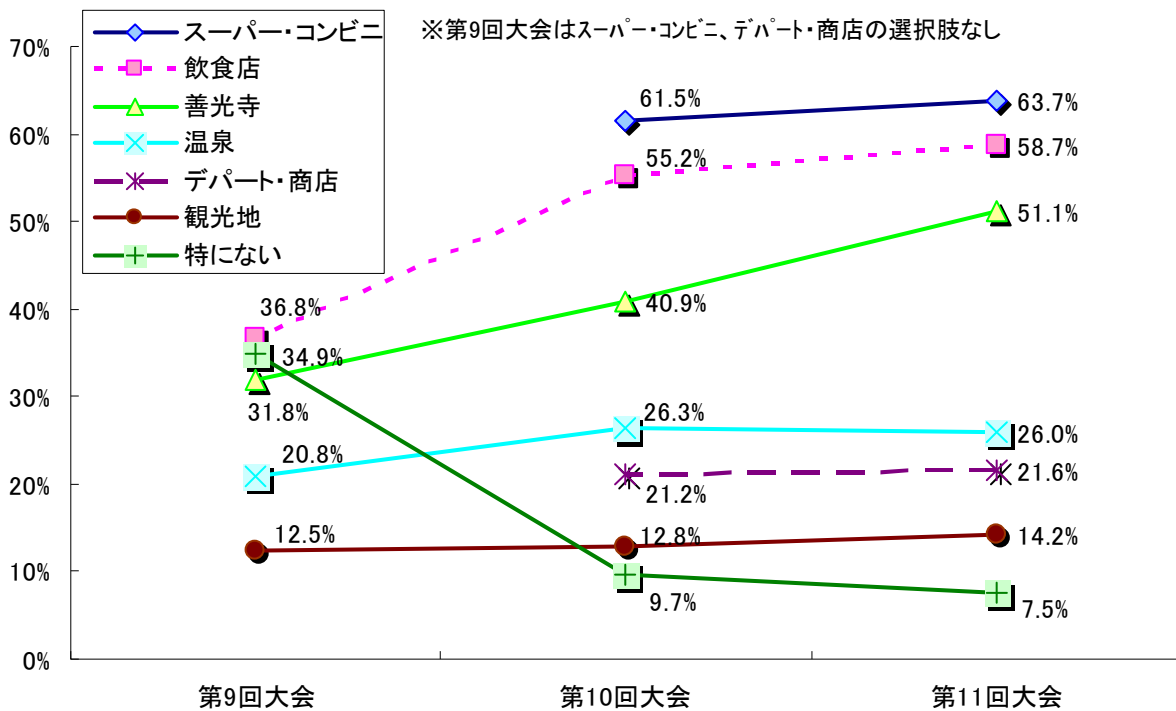
◆性別では



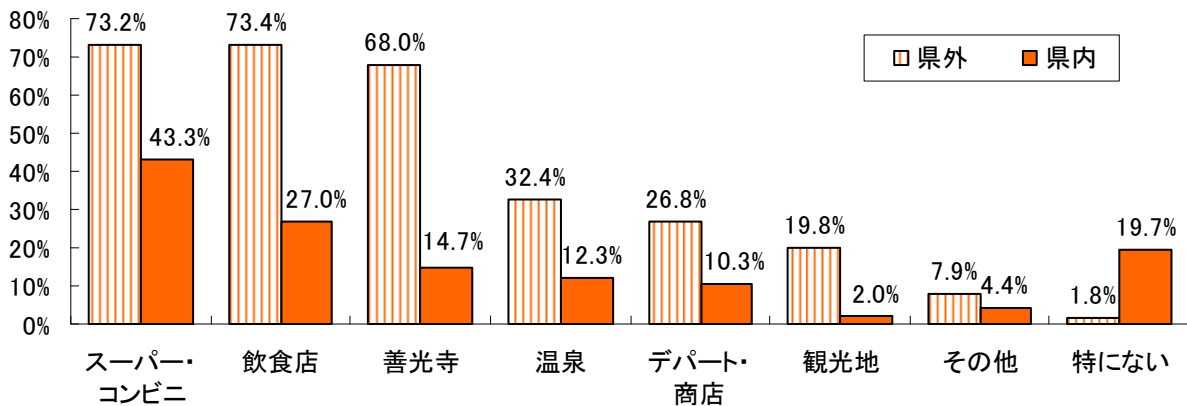
## 長野の街の印象と買いもの

### 訪れた所 御開帳の追い風「善光寺」大幅アップ

「スーパー・コンビニ」が微増ながら64%のトップをキープ。「飲食店」も60%に迫り2位のまま。「善光寺」が10ポイントの大幅増加で50%台にのせ、御開帳の追い風がはっきり。4位からの「温泉」「デパート・商店」「観光地」の順番にも変動はなく、そろって横ばい。



#### ◆県内外別では

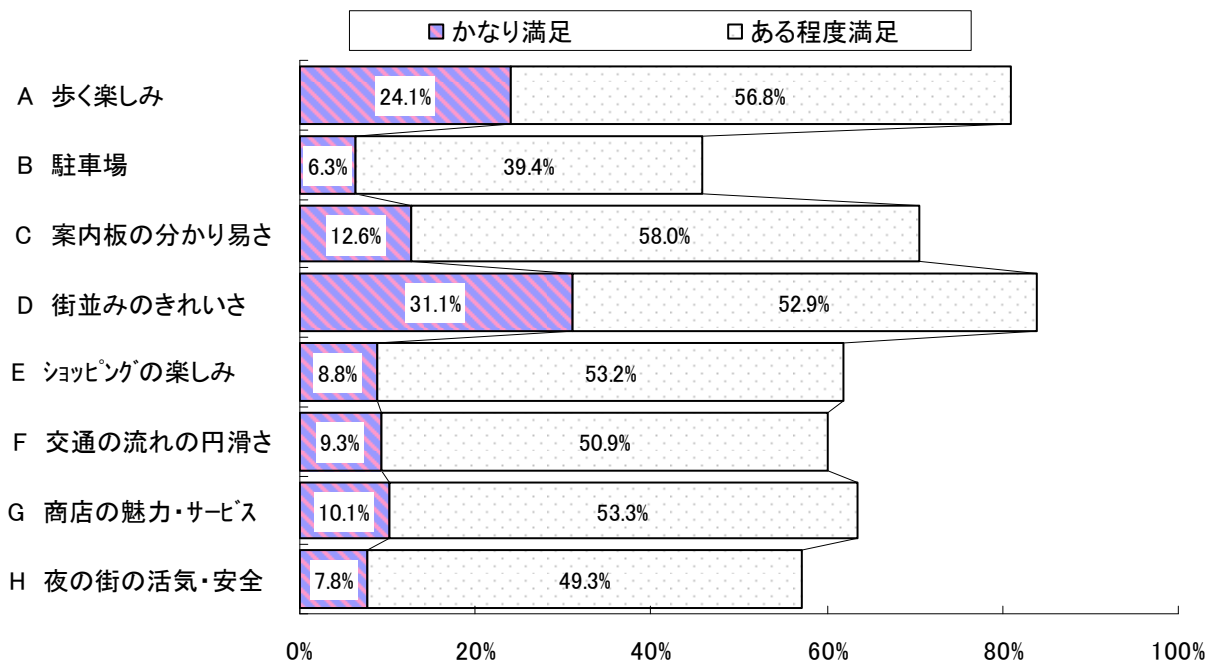


全般に、女性の行動が活発で「飲食店」は女性でトップにランクされ66%。男性では57%にとどまる。「善光寺」も女性58% - 男性50%の開きが出ている。

県外勢の動きも圧倒的で、上位3つはそろって70%前後の高率を示し、県内勢との開きが著しい。「特にない」は県内勢で20%。

## 中心市街地の印象

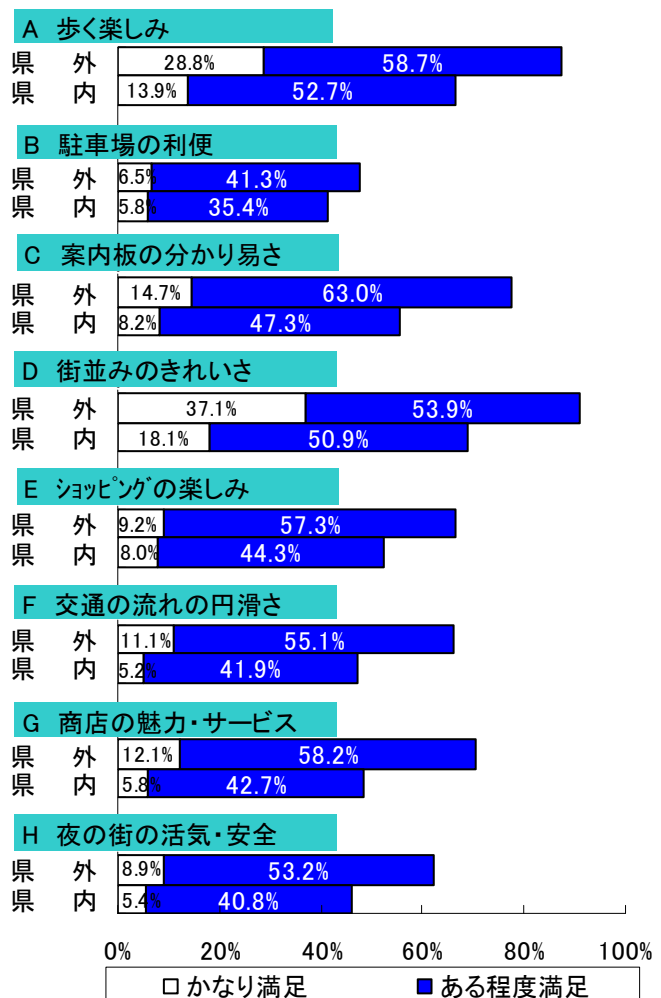
## 県外勢「街並み」「歩く楽しみ」…好感度高め



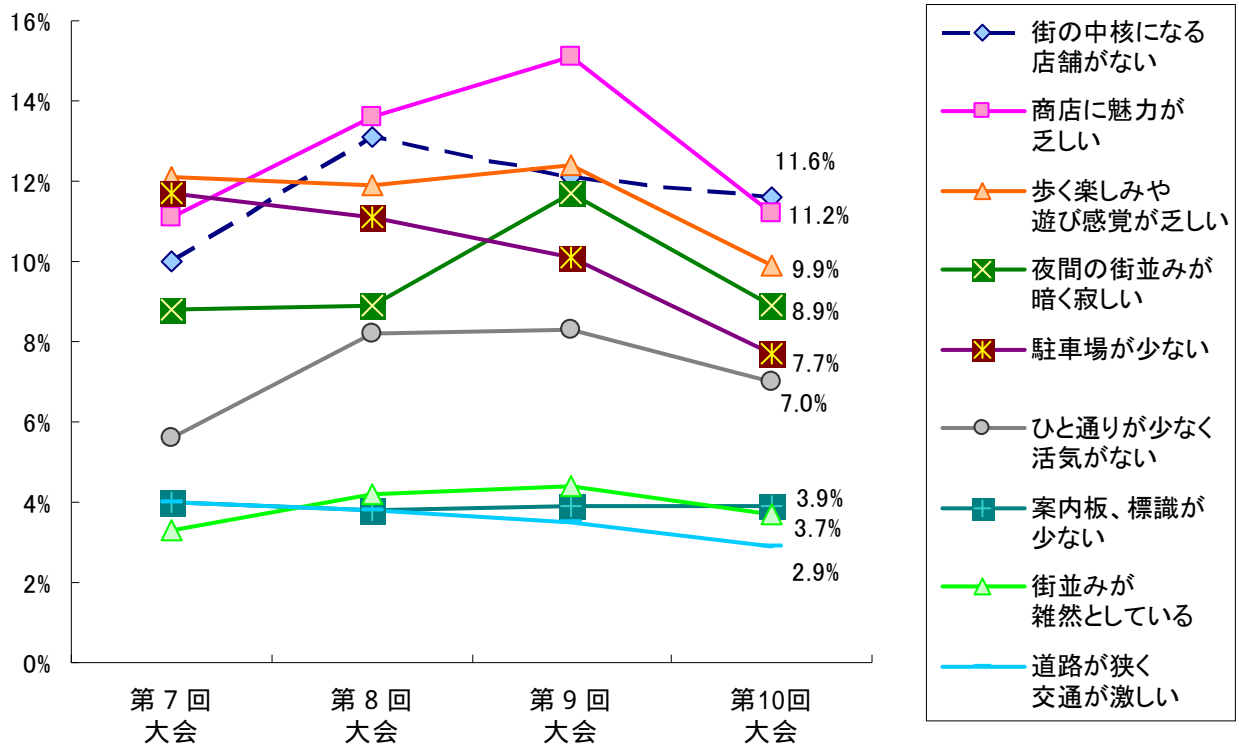
「満足」総体で「街並みのきれいさ」の84%を筆頭に「歩く楽しみ」「案内板の分かりやすさ」がベスト3。うち「かなり満足」は街並みがトップ(31%)など、上位3つは総体と同じ。女性は「街並み」40%、「歩く楽しみ」34%と男性よりも10ポイント上回る。

対照的に、評価が低いのは「駐車場」で46%、「夜の街の活気・安全」は57%にとどまる。

県内外の受けとめにかかなりの開きが歴然。「街並み」は県外勢が90%台に到達するが、県内勢は70%に届かない。同じく「歩く楽しみ」でも県外勢88% - 県内67%といった際立った落差だ。



街のもの足りなさ・不満 第7回～第10回大会までの推移



地元の受け入れ態勢への要望

県外勢「温泉」と「飲食・土産割引」のサービス抜きん出る

昨年大会に比べて、要望の順位に目立った変動はみられず、各項目の度合いが高まった。とりわけトップの「温泉サービス」をはじめ、上位の「飲食、お土産品の割引サービス」「ランナーグッズの紹介・販売の拡充」「参加できるイベントの増加」の伸びがめだつ。

「温泉」と「割引」のサービスは県外勢の要望がとりわけ高く「近辺の観光・宿泊ガイド」も上位に挙げられる。県内勢では「ランナーグッズ」と「ランナーのための指導・講習」で引き離す。

